

第7回 国立大学病院 リハビリテーション部門技師長・主任者会議を開催しました



リハビリテーション部 部長 まにわ 馬庭 そうきち 壯吉

7月21～22日の2日間、「第7回国立大学病院リハビリテーション部門技師長・主任者会議」を開催し、42大学から64名の参加がありました(会長: 当院理学療法士・江草典政)。会議初日には文部科学省の下左近寿美専門官に「大学病院を取り巻く諸課題について」の演題で特別講演を頂きました。



2日間、「リハビリテーション部門の運営」「雇用の課題」「人材育成」など様々な視点で議論が行なわれましたが、今年は特別企画として「人材育成手法としてのコーチング」というテーマでロールプレイを交えながらコーチング理論やスキルを学ぶ時間を設けました。この時間には、当院の看護部・臨床検査部・地域医療連携センターからの参加者もあり、人材育成を再考する良い機会になりました。会議終了後にはリハビリテーション室やクリニカルスキルアップセンターを会議参加者に見学して頂き、当院の施設について高い評価を得ました。



島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

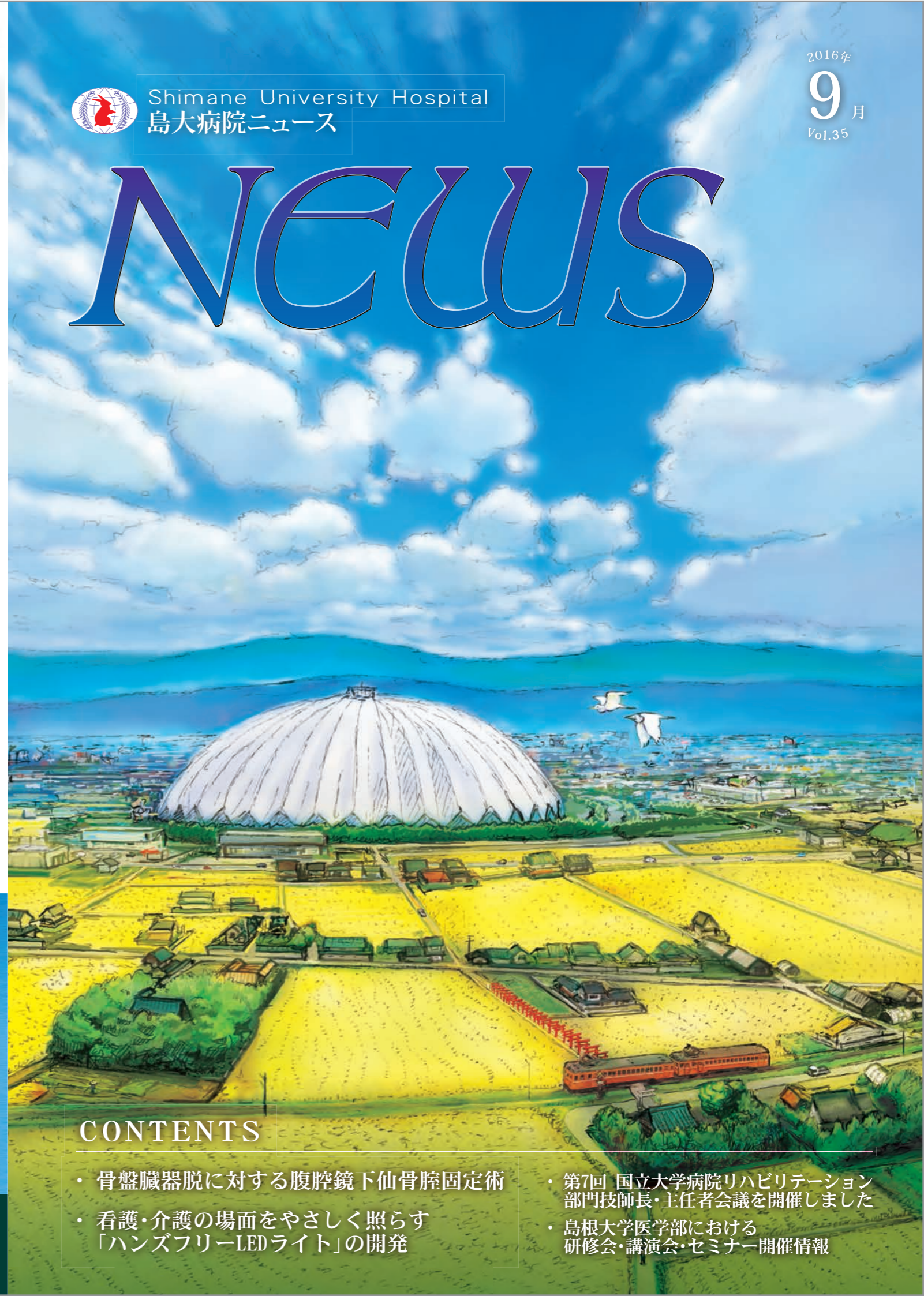
9月15日～10月14日 対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

| 開催日 | 時間 | 開催名 | 場所(★印 学外開催) | 対象者 | 主催者 |
|----------|-------------|--|------------------------------|-----|---------------------------|
| 9/15(木) | 9:30～11:30 | 平成28年度 島根県がんピアサポーター相談会 | 外来・中央診療棟3階 カンファレンスルームだんだん | 一般 | がん患者・家族が「地カ- |
| 9/18(日) | 13:00～16:00 | 神在りの園 がんメディカルカフェ *予約制 | みらい棟4階キ ャラク- | 一般 | がんプロジェクトが養成 基盤推進プロジェクト |
| 9/26(月) | 15:00～16:00 | 第3回 誰でも参加できる糖尿病教室 ①「災害の備えはできていますか？」 ②「こんなときどうする?～シックデイについて～」 | 外来・中央診療棟3階 カンファレンスルームだんだん | 一般 | 糖尿病がサポ-トチーム |
| 10/13(木) | 18:00～19:30 | 平成28年度 島根大学がん医療従事者研修会 「変わりつつある胃がん検診～現状の課題～」 | 臨床講義棟2階 大講義室 | 医療 | 内科学第二 |

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

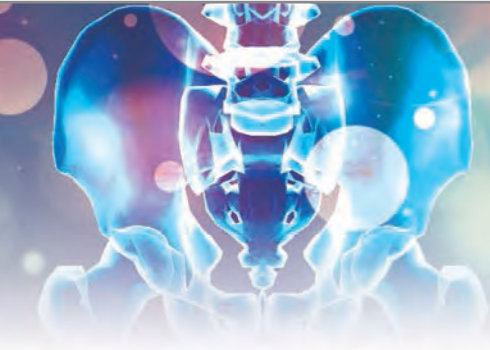


NEWS



CONTENTS

- 骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術
- 看護・介護の場をやさしく照らす「ハンズフリーLEDライト」の開発
- 第7回 国立大学病院リハビリテーション部門技師長・主任者会議を開催しました
- 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

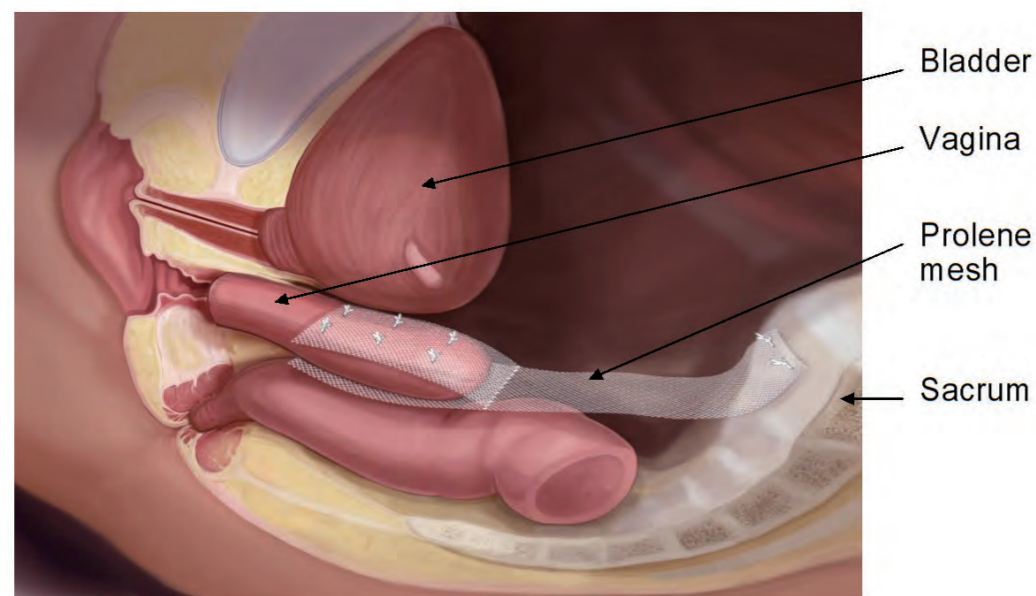


骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨陰固定術

周産期母子医療センター 准教授 かなさき はるひこ
金崎 春彦

日本は超高齢化社会を迎え、女性の平均寿命は87歳を超えています。それに伴い、骨盤底支持組織の脆弱化により発症する子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤といった骨盤臓器脱が増加しています。骨盤臓器脱は下腹部下垂感が主であり、進行すると膈から膀胱や子宮が脱出して高齢女性のQOLを著しく害します。手術としては経膈的に子宮を摘出し、弛緩した膈壁を切除・縫縮する手術が以前より行われてきましたが、再発率が高いため最近では経膈的にメッシュを挿入して下垂した子宮や膀胱を拳上する Tension-free vaginal mesh (TVM) 手術が広く行われています。しかし、膈壁を切開して経膈的にメッシュを挿入する為、挿入したメッシュが感染して露出するメッシュびらんが生じる事があります。特に比較的若い年齢の方は sexual activity があるためメッシュびらんが生じやすくなります。

腹腔鏡下仙骨陰固定術 (Laparoscopic sacrocolpopexy: LSC) は腹腔鏡を用いて経膈的にメッシュを挿入する術式です。子宮を亜全摘し、子宮頸部にメッシュを固定し、下降した子宮頸部を仙骨前面にメッシュで架橋して牽引します。経膈操作を伴わないため、sexual activity のある比較的若い方に適しているほか、経膈手術が困難な開脚障害のある方にも有用です。保険適用もあり今後増加してくる術式ではないかと考えています。骨盤臓器脱でお悩みの患者さんは当院産科婦人科あるいは泌尿器科にご相談ください。



問合せ先 産科・婦人科(外来) TEL0853-20-2389

看護・介護の場をやさしく照らす「ハンズフリーLEDライト」の開発

産学連携センター地域医学共同研究部門 教授 なかむら もりひこ
中村 守彦

出雲キャンパス内の医学部および附属病院の全教職員(約1,300名)へのニーズアンケートの結果、病棟看護師から看護用ライトのニーズ提案があり、産学官連携で研究開発をスタートしました。

この度、出雲市内の企業、Do ライト(株)および(株)島根富士通との共同研究により、看護師が夜間病室で使用する「ハンズフリーLEDライト」の実用化の目処が立ちました。

このLEDライトは、患者さん対応で両手が塞がった状態において、体勢制御(頭部または上半身の傾き)によりハンズフリーでON操作でき、誤動作回避機能を備えます。さらに、患者さんに光ストレス負荷を与えないフェード機能を持ち、光質(自然光、ソフト光)や照射エリア(口腔内から全身)の変更も自由自在に操作できます。充電式バッテリーを内蔵した『耳掛け式』LEDライトは超軽量(37g)で、目線と光線が一致します。入院患者および看護師双方に『やさしい』LEDライトの活用により、看護の質の向上が期待できます。医の倫理委員会の承認(20160519-1)を得て、実際に病棟で夜間使用してもらったところ(臨床検証)多くの看護師から大変高い評価を得ました。吸引やおむつ交換など様々な場面で威力を発揮します。

尚、このハンズフリーLEDライトに関する技術については、特許申請済み(特願2016-008441)です。これより更にコンパクト・軽量化を試み、激しい動きにも対応するフレームの形状を完成させ、遅くとも来年の春には販売開始の予定です。

また、この開発中のLEDライトは、看護以外の医療(外科系など)への活用も見込めるイノベーションです。

問合せ先 産学連携センター TEL 0853-20-2912



耳掛け式ハンズフリーLEDライト(β版)



看護用ハンズフリーLEDライトの装着時



ご報告

第8回

「患者さんの視点に立った医療を考える委員会」を開催しました

平成26年4月に発足した当委員会も平成26年5月1日に第1回を開催してから、今回で8回目を迎えました。毎回外部委員の方々から貴重な意見をいただき、各外来受付に『主治医に伝えたいことを予めまとめておけるようメモ用紙を配備する』など、患者さんに満足していただくための様々な改善策の一助をなしています。今回は平成28年8月12日(金)に開催し、患者満足度向上WG等の議案をもとに、患者さんの立場からの意見をいただくことができ、大変充実した会議となりました。また、今回は外部委員のみなさんに当院で人気の「ちょっと気になる健康講座」をご覧いただき、散会としました。次回はこの「ちょっと気になる健康講座」のあり方や内容等についてもアドバイスいただけるのではないかと思います。



ご報告



将来の医療従事者を目指して

「高校生手術部体験学習」を開催しました

8月3日(水)、当院が主催している「高校生手術部体験学習」を開催しました。この学習は、将来医師等の医療従事者をめざす高校生を対象として、平成19年より毎年開催しているもので、普段入ることのできない手術部を公開し、現場を体験することで、将来の医療従事者を増やすことを目的としています。

今年は県内8校から38名が参加し、①手術見学、②縫合手技、③腹腔鏡手術シミュレーション、④臨床工学技士業務見学の各プログラムを体験しました。普段入らない場所とあって、高校生たちは緊張した表情で手術見学等の体験を行っていました。終了後には「医療現場でたくさんの発見ができた。」「今後の進路選択を明確にできる学習となった。」「手術や腹腔鏡の難しさを実感した。」などの感想が寄せられました。



縫合手技の様子



手術見学の様子



島根県主催の体験実習を実施しました

【中学生地域医療現場体験】

7月27日(水)、「中学生地域医療現場体験」を実施しました。この事業は、地域の医療現場での体験学習を通して地域医療従事者をめざす中学生の育成を図るものです。今年はお雲市内外から20名の参加があり、手術部・リハビリテーション部の見学や内視鏡手術トレーニングの体験などを行いました。体験終了後には「体験を通して医療関係の仕事に興味を持った。」などの感想が聞かれました。



リハビリテーション部の見学

【メディカル・アカデミー】

8月9日(火)、「メディカル・アカデミー」を実施しました。この事業は中学2・3年生を対象としており、地域医療の現場での体験活動や医療施設等の見学を通して、将来、地域を支える医療従事者をめざそうとする生徒の育成を図ることを目的としています。当日は、クリニカルスキルアップセンターにて「BLS・蘇生」実習を行いました。参加者からは「一人の人を助ける為に、多くの人協力しなければならないことが分かった。」などの感想が寄せられました。



「BLS・蘇生実習」の様子

【夢実現進学チャレンジセミナー】で医学実習

「夢実現進学チャレンジセミナー」は医学部等の難関学部を志望する県内の高校2年生で合宿を行い、様々なプログラムを通じて夢実現への志を高めることを目的としています。セミナー期間中の8月10日(水)、医療志望の生徒27名が当院を訪れ、BLS・蘇生、手術見学、病理診断の実習プログラム及び再生医療についての講義を受けました。医学部生との昼食会では、将来目指している医師像などを積極的に質問する姿が見られました。



手術の説明を受ける参加者

【一日高校生看護体験】

7月28日(木)、高校生に看護の心や看護職への関心を高めてもらい、一人でも多くの生徒に看護職を目指してもらうことを目的に、今年度の「高校生看護体験」を実施しました。7校の高校から31名の高校生が参加し、13部署に分かれ、ケアなど看護師、助産師の看護体験を実施しました。クリニカルスキルアップセンターにて模型を使用したの血圧測定、脈拍測定、心音聴取、点滴滴下調整の演習を実施。体験終了後には、意見交換を行い部署の看護師長からコメントや助言をもらいました。高校生からは「看護師の仕事内容がわかり、いろいろ学べた」「今後の進路の参考になり、看護師になりたい気持ちが強くなった」等の感想が聞かれました。



脈拍測定



沐浴

心音聴取

点滴滴下調整

血圧測定



島大病院ニュース 2016年9月

ご報告

医師会・歯科医師会会員の方限定 島根大学病院休日人間ドックの実施について

ながい あつし
臨床検査科 診療科長 長井 篤

昨年度も多数の方に当院休日人間ドックを受検頂き、有難うございました。年々多くの先生方に受検頂けるようになり、当院の人間ドックに信頼を寄せて頂けているものとうれしく思っています。今年度も日常診療にお忙しい先生方の健康管理の一助になればと、当ドックを企画しました。医師会を通じてご案内させて頂きましたが、今年の実施日は1日増やし、7月31日(日)、8月21日(日)および10月2日(日)の3日間に設定して募集させて頂きました。当ドックでは先生方にスムーズかつ心地よく受検して頂く事を目標に、休日受付での受付後、全ての検査が待ち時間無く受検できるように時間配分をしました。通常の健診では義務化されている基本項目も省略可能とし、オプション項目のみでの受検も可能としました。また、女性の方に女性医師が診察を行うこととしました。

当日は当院スタッフ(写真)が丁寧に説明・誘導を行わせていただきました。今年度は成人病のリスク遺伝子多型の保有を血液で評価する遺伝子ドックを外注検査として取入れました。当日の希望でも受検できるようにしました。ドックの検査項目と内容の参照は、島根大学医学部附属病院臨床検査科案内(<http://hdrs.med.shimane-u.ac.jp/>)→(左バナー)検査項目一覧からできますので、ご覧ください。



島根大学医学部附属病院 Shimane University Hospital 臨床検査科

人間ドックを通じて健康生活をサポートします!

ごあいさつ
当科人間ドックの特徴
ドックプラン一覧
検査項目一覧

1) 臨床検査科人間ドックのご予約はこちら
Web予約申込

島根大学医学部附属病院 臨床検査科

臨床検査科長 長井 篤

問合せ先 臨床検査科 TEL&FAX 0853-20-2559



平成28年9月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2016年9月

お知らせ



「出産お祝い膳」を提供しています

ひらい じゅんこ
栄養治療室 室長 平井 順子

現在、当院ではご出産された方へ、新しい家族の誕生と出産という大きな仕事を終えたお母さんの労をねぎらい、そしてこれから始まる子育てへの激励の気持ちをこめてお祝い膳を提供しています。

8月から周産期母子医療センターが稼働し、出産数の増加が見込まれています。その稼働にあわせ、この度、お祝い膳の見直しを行いました。給食委託業者の調理スタッフと栄養士が、島根和牛など地元の食材を取り入れた特別メニューを考えました。見た目からも楽しんでいただけるよう、彩りにもこだわりました。また、食器もメニューに合わせて新しくご用意いたしました。

日々の食事も、産後のお母さんにとって必要な栄養をしっかり摂取していただけるよう内容の充実をはかっていきたいと考えています。今後も入院中の病院の食事を通して、患者さんが食事に関心を持ち、ご自分とご家族の健康な食生活を実践できるよう、ご家族を支えるための食育も考えることができる食事の提供を行なっていきたいと考えています。

問合せ先 栄養治療室 TEL: 0853-20-2074



平成28年9月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2016年9月

お知らせ



ホスピス緩和ケア週間

イベントテーマ: 「ひろめよう、緩和ケア」



2016年10月2日(日)～10月8日(土)に世界ホスピス緩和ケア週間が設置されて、各地でイベントが開催されます。当院は日本ホスピス緩和ケア協会に所属しており、専門的な緩和ケアを提供する施設です。来院された患者さん・ご家族や医療スタッフのみなさんに、緩和ケアの啓発・普及活動を行うイベントを企画しました。是非、ご参加下さい。

日時 平成28年10月3日(月)10時～12時

場所 病院正面玄関ロビー

- 内容
- ・「なご☆みん」一座による公演
 - ・緩和ケア相談コーナー
 - ・緩和ケアのチラシ・資料の配布
 - ・栄養課からレシピ・栄養補助食品の試食
 - ・癒やしのコーナー(ハンドマッサージ・ストレッチ)
 - ・ハンドベルの演奏
 - ・ポスター、パネル展示 など

問合せ先 緩和ケア講座 TEL(0853)20-2237



平成28年9月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

